



インド

健康な森、健康な人々、気候変動プロジェクト
現地からのお便り（2022年7月～2023年6月）

2023年8月
コンサベーション・インターナショナル

※本プロジェクトは、インドの現地 NGO Applied Environmental Research Foundation (AERF) が実施しています。

保全契約を通じて劣化した森林を再生

西ガーツ山脈北部地域の森林は、零細農家を中心とする住民が所有するコミュニティ林が多く、AERF は森林の所有者と保全契約（Conservation Agreement）を結ぶことで、森林の長期的な保全に携わってきました。また、単に森林を保全するだけでなく、森林劣化が進む場所では植林を行って健全な森林の維持に努めてきました。昨年度は Katabali 村と Kalambaste 村にある3か所のコミュニティ林において、各村の住民と協力して29種の在来種、計1,957本の植林を行いました。植林は大変な作業であるため、プロジェクトでは参加した住民に適正な報酬を渡しています。



Katabali 村で在来種を植林（左）、植林を行うコミュニティの人々（右）

植林する樹種は各コミュニティと協議して決定しますが、その際に森林の自然更生や生物多様性の観点から重要なものと、果樹など収入に繋がる樹種を組み合わせ、適正なバランスを維持しています。



表 1. 対象地のコミュニティ林で植林した木の種類と数

No.	樹木の名前	学名	Kataval村 (Ghag)	Katavali 村 (Pendharkar)	Kalambaste村	計
1	Biwla	<i>Pterocarpus marsupium</i>	50	10	200	260
2	Karanj	<i>Pongamia pinnata</i>	100	50	500	650
3	Arjun	<i>Terminalia arjuna</i>	5	10	0	15
4	Tirfal	<i>Zanthoxylum rhetsa</i>	15	15	0	30
7	Fanas	<i>Artocarpus heterophyllus</i>	10	10	30	50
9	Ringi	<i>Sapindus laurifolius</i>	30	10	100	140
10	Tamhan	<i>Legerstoremia speciosa</i>	0	0	5	5
12	Bakul	<i>Mimusops elengi</i>	0	0	50	50
13	Hirada	<i>Terminalia chebula</i>	10	10	20	40
17	Payar	<i>Ficus amplissima</i>	0	0	2	2
22	Jambhul	<i>Syzygium cumini</i>	10	10	5	25
23	Kokum	<i>Garcinia indica</i>	100	25	0	125
24	Sisam	<i>Dalbergia latifolia</i>	10	10	0	20
26	Shivan	<i>Gmelina arborea</i>	25	20	50	95
27	Cashew	<i>Anacardium occidentale</i>	100	50	0	150
28	Shevga	<i>Moringa oleifera</i>	50	50	0	100
29	Avala	<i>Phyllanthus emblica</i>	100	50	50	200
			615	330	1012	1957

保全対象地における生物多様性モニタリング

AERF はカメラトラップを用いて生物多様性モニタリングや密猟など違法行為の監視を行っています。モニタリングによって保全対象林における絶滅危惧種の生息状況が確認できるほか、地域コミュニティに対して保全の取り組みの成果を伝える重要な手段にもなります。

昨年度は Wadi Adhishti 村、Davede 村、Kaavali 村でモニタリングを実施し、絶滅危惧種のインドサバンナセンザンコウ (Indian Ground Pangolin)、ドール (Asian Wild Dogs)、危急種 (Vulnerable species) のインドヒョウ (Indian leopard)、インドガウル (Indian Gaur) などの姿をカメラトラップが捉えました。森林保全がこうした貴重な野生生物の保全にも大きな効果を奏している何よりの証拠になると考えています。



表：カメラトラップが捉えた野生生物の姿



ドール／絶滅危惧種（左）と、インドヒョウ／危急種（右）



インドサバンナセンザンコウ／絶滅危惧種（左）と、インドガウル／危急種（右）

「森林管理人」対象の研修

AERF は 2008 年から MyForest と呼ばれる保全契約に基づく森林保全を進めています。この取り組みにより、過去 15 年間でおよそ 8,600 エーカー（約 3,480ha）の民有林が保全対象になりました。こうした地域住民との協力による森林保全活動を進める際には、住民達がコミュニティ全体でどのような保全を目指すのか、またそれに基づく各自の役割や責任を理解している必要があります。そこで、それぞれの地域コミュニティとの保全活動をスムーズに進めていくため、AERF は各コミュニティで森林保全の取りまとめ役を担う「森林管理人」を設置しています。現在は、15 村に計 20 名の「森林管理人」が配置され、森林保全において主要な役割を果たしています。

AERF は半年毎に「森林管理人」を対象とした研修を実施し、生物多様性モニタリングや記録方法の技術指導や、それぞれのコミュニティでの活動や学びの共有を行っています。以下の写真は昨年度 2 回実施された研修の様子です。



森林管理人対象の研修の様子（左）と、研修で AERF の在来種の育苗場を訪問（右）

※画像および文章の無断転用はご遠慮ください。